



大震災での教訓による対策は

菊池 邦夫 議員
(新興会)

問 より充実した計画を作る絶好の機会でもあり、様々な活動の中から得たものを活かした地域防災計画の見直しはどうか。

答 意見、提言をもとに、東日本大震災の教訓として、通信情報網の施設強化、食料供給機材、燃料物品等供給体制の整備、支援者支援等、地域の実情に合わせ、段階的に整備する。防災計画は、現在詰め作業中であり、見直し後の計画が活きた計画になるよう、防災危機管理課を立ち上げ、推進体制を整える。

問 遠野市進化まちづくり検証委員会がまとめた報告に対する第三セクター等の改革は、どのような状況にあるのか。

答 外部有識者からなる委員会です。昨年2月に検証結果報告書をいただいた。その報告書にもとづき、市の方針として、「遠野スタイル

自立・連携行動プラン」を定めた。改革方針については、全ての団体から了解を得て、団体ごとに自らの責任で改革に取り組んでいただいている。特にも、畜産振興公社遠野馬の里については、競走馬育成、調教部門の完全民営化を平成23年10月に行い、民間ノウハウが活かされた形で安定した経営状況で推移している。

遠野市観光協会については、4月に開設する観光交流センターの管理運営において、遠野ふるさと公社と事業連携し、互いの観光事業、物販業務を深めながら成果を高めることとしている。今後においても、委員会の提言にもとづき、互いのノウハウの共有と、足らざるを補い合う事業連携を深めながら、各団体の自立と連携を着実に進めたい。

荒川牧場で草を食む馬たち



荒川牧場で草を食む馬たち